

各校の成果と課題、「今後、力を入れて取り組む内容」

中学1年生

学校	教科	成果○と課題●	今後、力を入れて取り組む内容
川之江北中	国語	○ 文章の内容を読み取ることがよくできている。 ● 条件に従い、自分の考えを書くことを苦手としている。	・ 資料やグラフを見て、自分の意見を持つ活動を増やす。 ・ 字数だけでなく、構成などにも条件を付けた作文に取り組む。
	社会	○ 全体的には目標値とほぼ同程度でおおむね良好な状況である。 ● 「世界各地の人々の生活と環境」の単元の基礎的な知識の定着がやや不十分である。	・ 基礎学力の定着に向けて、小テストなどを効果的に行う。 ・ ICT機器などを利用して、様々な資料に触れさせ、多面的、多角的な思考力の向上を目指す。
	数学	○ 全体的によくできている。 ● 文字式の表し方や比例・反比例の式を求めるなど、基礎的な知識の定着が不十分なところがある。	・ これまで学習した内容を繰り返し復習し、基礎・基本の定着を図っていく。 ・ 基礎的な知識を活用しながら、応用問題に取り組んでいく。
	理科	○ 全体的によくできている。 ● 知識・技能に関する問題で正答率がやや下がっており、基礎的な知識の定着が不十分なところがある。	・ 直近の学習内容を復習し、重要語句を覚えるための小テストなどを効果的に行う。 ・ ドリル学習を行い、間違った問題を繰り返し学習できるようにする。
	英語	○ 語形や語法を問う問題では目標値よりも高い正答率を出しており、よく理解できている。 ● 場面に応じて書く英作文では正答率が著しく低かった。	・ 英文を写したり自分で考えて書いたりする課題を取り入れ、英作文の力を付けていく。 ・ 適語を補充するだけでなく、英文全体を音読したり書いたりする学習を取り入れる。
川之江南中	国語	○ 文章に書かれていることを基にして内容を捉えることができている。 ● 文法や書くことの単元に課題がある。	・ 本や資料などを用いて、事実やそれを基に考えたことを書く活動に取り組む。 ・ 二百字帳で漢字練習を行う。 ・ 文法の単元について基本的な問題から復習を行う。
	社会	○ 歴史的分野の基礎的・基本的な知識は理解できている。 ● 資料活用能力を問われる問いに課題がある。	・ 小テストや日々の課題で、基礎的・基本的な反復練習を行う。 ・ 地理的・分野において、資料活用の問題に多く取り組む。
	数学	○ 基礎的な知識は理解できており、正答率・平均点も高い。 ● 比例・反比例の単元に課題がある。	・ 小テストを継続して実施していき反復練習を行う。 ・ 比例・反比例の単元について基本的な問題から復習を行う。
	理科	○ 実験器具の使い方や密度の単元の正答率が高い。 ● 物質の状態変化の単元に課題がある。	・ 動物の分類の単元について、基礎的な問題の復習を行う。 ・ 文章題の問題に慣れるため、練習問題を行う。
	英語	○ 基礎的な文構造や文法事項を理解している。対話文の内容を大まかにつかんでいる。 ● 英語でまとまった文章を書くことに課題がある。	・ 英作文の力を身に付けられるよう、語彙力を伸ばす。 ・ 教科書の内容に応じたトピックを設定し、まとまった英文を書く練習を継続して行う。

三島東中	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ほとんどの領域で、市の平均を上回っている。また、「文法・語句に関する事項」では、全国平均を上回っている。</li> <li>● 「書くこと」の領域では、正答率が低く、読み取った内容を明確に書いたり、自分の考えを書いたりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章内容を要約して書いたり、自分の考えをまとめて書いたりする活動の機会を多くしていく。</li> <li>・ 意識して短作文を書く活動を増やして、「書くこと」への抵抗感を無くしていく。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「日本の姿」の領域で、市の平均を上回っている。また、全国平均を上回っている。</li> <li>● 市の平均を下回っている領域もあり、「地理」の領域では、世界の姿や世界各地の人々の生活と環境の正答率が低い課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的な部分の復習ができるように、授業中の小テストなどで反復問題ができるようにしていく。</li> <li>・ 社会科に苦手意識を持つ生徒が多いため、生徒の興味関心を引き付けられる教材を準備する。</li> </ul>
	数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「文字式」、「平面図形」の領域で全国平均を上回っている。</li> <li>● 「比例・反比例」の領域が全国から-2.6ポイントになっており課題がある。特に、与えられたx,yから式にする力がとても弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比例、反比例は学習をしても強く苦手意識を感じていたため、一次関数の導入では苦手意識を持たせないような教材を準備する。</li> <li>・ 小テストで、知識・技能の力を確実につけていく。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実験や観察を取り入れた内容では、正答率が全国平均を上回っている。</li> <li>● 全分野で基礎内容の定着に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小テストなどでの確認を継続的に行う。</li> <li>・ 引き続き、実験や観察を多く取り入れ、比較したり観察したりする学習に力を入れる。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ほとんどの領域で、市・全国平均を上回ることができている。</li> <li>○ 語彙の知識・理解は90%を超えており、定着がみられる。</li> <li>● 英作文の正答率が低いため、知識を活用して書く力を伸ばす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英作文の機会を増やし、場面に応じて書く力をつけていく。</li> <li>・ 小テストを行い、単語や文法の基礎を固めていく。</li> </ul>
三島西中	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 必要な情報を聞き取る力、文学的文章を読み取る力、漢字を読む力は身に付いてきている。</li> <li>● 記述式問題について、書いて表現することへの意欲付け、練習が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎・基本の力の定着に向け、漢字、文法、古典分野の基礎事項など反復学習を継続していく。</li> <li>・ 100字作文などの短作文から、求められていることに対して自分の考えを的確に書いて表現する活動を継続していく。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 記述式問題の正答率が全国平均を上回っており、既習内容をまとめ表現する力が付いている。</li> <li>● 基礎・基本の正答率が全国平均より低く、とりわけ地図の読解に関しては理解不足がうかがえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地図や資料から読み取る学習活動を多く取り入れ、考察する力を付ける。</li> <li>・ タブレット端末のドリル学習ソフトを用いて基礎学力の定着を図る。</li> <li>・ 基礎的な語句について小テスト等による反復練習を行い課題に対応する力を付ける。</li> </ul>
	数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正答率が全国平均を上回り、基礎的な知識・技能は身に付いている。</li> <li>● 記述式問題の正答率が低く、論理的な説明などの表現力を高めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続して、小テストなどの反復練習を行う。</li> <li>・ 思考力を必要とする問題に取り組む時間を確保する。問題解決の過程や結果を的確に表現する活動を行う。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正答率が基礎・基本、活用ともに全国平均を上回っている。</li> <li>● 化学や物理領域の正答率が低く、目に見えない原理現象の理解を高めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小テスト等による反復練習を行い、様々な課題に対して対応する力を付ける。</li> <li>・ 実験やモデルを活用して原理現象を可視化して、理解を深める。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 語彙の知識・理解に関する問題の正答率が他の平均正答率を上回っている。</li> <li>● 「書くこと」に関する問題の正答率が低く、自分の考えを英語で正しく表現することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も継続して単語の練習、および小テストを行っていく。</li> <li>・ 英作文の機会を授業内で増やし、自分の考えを英語で表現する力を身に付けさせる。</li> <li>・ 4技能の全てが偏ることなく伸ばせるよう、見通しを立てて授業を行う。</li> </ul>

三島南中	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し合いの内容を聞き取る問題、文学的な文章の内容を読み取る問題における正答率が高く、初見の文章にも対応できている。</li> <li>● 漢字の読み書き、文章を書く問題の正答率が低い傾向にある。作文の基本的な書き方について力を付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の要点を絞ったり、要約をしたりする活動には比較的抵抗なく取り組んでいるので、それを生かして、自分の意見をまとめたり、漢字を使ったりしながら、文章を書く力を伸ばしていきたい。</li> <li>・ 文法や言語に関する知識は身に付いているので、それらを活用するために、継続的な学習の積み重ねが必要である。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知識・技能における正答率は、比較的平均値が高い。語句の押さえができていられるので、今後も基礎の徹底を図りたい。</li> <li>● 思考・判断の正答率にばらつきがあり、記述問題の正答率が低い傾向にある。今後は授業の振り返りに文章でまとめる等の時間を設け、克服に努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的な語句の押さえを続けるとともに、年代の並べ替えや資料を見て分析する問題の対策を立てる。</li> <li>・ 記述問題で特定の語句を用いて解答する場合や、資料を見て解答する場合など、様々な問題に対応するために日々の小テストやICT端末を用いて復習を行う。</li> </ul>
	数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正負の数の四則計算における正答率が高い。分数を含む一次方程式の正答率が全国平均値より16ポイント高い。</li> <li>● 文字式の表し方や一次式の減法の正答率が低かった。比例・反比例において、事象から数量の関係を式に表し、その関係を説明することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的な計算力の向上を目指し、反復学習を充実させる。</li> <li>・ 身近な事象を数学的に解釈し、その関係を文字を使って表すことができるようにする。</li> <li>・ 習熟度において個人差がみられるので、個に応じた課題と評価をさらに進めていく。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生物分野の知識が身に付いており、記述問題にも対応できている。</li> <li>● 化学分野の計算、グラフの読み取り問題を苦手とする傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習した事象が説明できるまで理解を深め、論述問題の正答率上昇につなげる。</li> <li>・ 正答率に偏りがある問題を習熟度に合わせて反復し、理解を高める。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容理解におけるリスニングの正答率が高い。疑問詞の知識が身に付いており、また、長文の要点を捉えることを得意としている。</li> <li>● 思考・判断・表現の正答率が低い傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分のことについて表現する英作文が書けるように毎回の授業で英語で友達と話す活動をし、聞いたことを書く練習をする。</li> <li>・ 文章構造を定着させるために、会話を通じて反復練習を行う。</li> </ul>
新宮中	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎問題、活用問題の正答率は、全国平均・市平均とともに上回っている。特に、文学的な文章を読み取る問題において、正答率が高かった。</li> <li>● 説明的な文章を読み取る問題を苦手とする傾向が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎力の更なる定着を図るために、小テストやドリル学習に力を入れる。</li> <li>・ 説明的な文章を読み、内容を要約したり、絵や図で表したりする活動を通して、読解力を身に付ける。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎問題、活用問題の正答率は、全国平均・市平均とともに上回っている。特に、地理的分野の正答率が高かった。</li> <li>● 歴史的分野において、資料や地図を活用した問題を苦手とする傾向が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重要語句の定着を図るために、小テストを反復して実施する。</li> <li>・ ドリル学習系のソフトウェアを活用し、基礎的・基本的な知識の更なる定着を図る。</li> <li>・ 資料の読み取りや、記述式の問題に取り組み、思考力の定着を図る。</li> </ul>
	数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎問題、活用問題の正答率は、全国平均・市平均とともに上回っている。特に、計算問題における正答率が高かった。</li> <li>● 関数領域において、具体的な事象から比例・反比例であることを判断し、答えを導く問題を苦手とする傾向が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の終わりに活用問題を解く時間を増やすことにより、知識を様々な問題に応用できる力を付ける。</li> <li>・ 個に応じたドリル学習を行うことにより、基礎・基本の定着を図る。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎問題、活用問題の正答率は、全国平均・市平均とともに上回っている。授業中、生徒が理科的な知識を活用しようと取り組んだ成果が出ている。</li> <li>● 全体的に見ると苦手な単元はないが、基礎的な知識を粘り強く身に付けていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々に苦手意識のある問題をじっくりと解く時間をつくることにより、基礎力の更なる定着を図る。</li> <li>・ ドリル学習系ソフトウェアを活用し、自分の苦手な単元について知識の定着を図る。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎問題、活用問題の正答率は、全国平均・市平均とともに上回っている。日々の学習の成果が発揮されている。</li> <li>● 全体的に見ると苦手な単元はないが、個々に結果を分析し、学習の取りこぼしを拾い上げていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎基本の徹底を意識する。</li> <li>・ 語彙力の強化を図る。</li> <li>・ 個々に応じた学習支援を行う。</li> </ul>

土 居 中	国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 聞き取りや文法などの基本的知識は正答率が高くなっている部分がある。読み取り問題や文法などは無回答が少なくなっている。</li> <li>● 作文問題の正答率が低く、書く力が身に付いていない。漢字の読み書きが定着しておらず、特に書き問題は無回答が多くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字の読み書き、文法、言葉、歴史的仮名遣いなど、基本的知識は繰り返し学んだり、復習や小テストを行ったりすることで定着を図る。</li> <li>・ 作文問題の正答率が上がるよう、定期的に作文を書く。また、書く力が身に付くよう、作文のルールや書き方を確認し、作文を書くことに慣れる。</li> </ul>
	社 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 無答率は低く、自分なりに答えようとする意欲は高まっている。</li> <li>● 基礎的な知識を十分理解できていないため、選択問題や記述問題での誤答が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の最初に行う小テストを効果的に実施し、基礎基本の定着を図る。</li> <li>・ 社会的事象を自分なりの言葉で説明する機会を増やし、その事象への深い理解を促す。</li> </ul>
	数 学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図形分野の問題で正答率が高い。</li> <li>● 基礎基本が定着していないため、計算問題や記述式の問題での誤答が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的に小テストを行い、基礎基本の定着を図る。</li> <li>・ 記述式の問題を授業や課題で解く機会を増やす。</li> </ul>
	理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 意欲を持って学習に取り組み、基本的な学習内容しっかり理解できている生徒が多い。</li> <li>● 基礎知識を活用しての問題など思考力を要する問いについては正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ しっかりとノートをまとめたり、教科書を読んだりして、基礎知識の定着を図る。</li> <li>・ ICT端末機器を用いた問題演習に取り組むとき、すぐに分からない場合でも、まずはじっくりと考えてみる習慣付けを図る。</li> </ul>
	英 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ リスニングや基本的な文法事項についての正答率はやや高い。</li> <li>● 長文を読んで内容を正しく捉えることや、英文を書くことが苦手。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文法事項の練習に時間を掛ける。課題の工夫をする。</li> <li>・ まとまりのある文章を解くための書く練習を増やす。</li> </ul>